

努力賞

やんちゃな子供と母の愛情

荒川区立第四峡田小学校六年

森 悠人

柳田先生、こんにちは。ぼくは六年生ですが、一日に何度も「悠人！やめなさい！」と言われてしまっています。

そんな所が、この本のデイビッドと似ていると
いうか、初めてこの本を見た五才くらいの時から、
今でも変わっていない自分がいて、おもしろいや
ら残念やらといった気持ちになりました。

この本を図書館で見つけて手に取ったのは、英語のJR先生が「NO！DAVID」を読んでくれた事を思い出して、なつかしくなったからです。
遊んでいるデイビッドの絵がおもしろかったり、

男のJR先生が、ママのまねをして言う「NO！DAVID」がおもしろくて、笑いながら絵本を見ていました。

そんな事を思い出しながら久しぶりに読んだ感想は、「楽しいんだよ。子供の気持ち分かってよ。」と「男子って楽しい事が好きなの。」です。だって、だって、お風呂におもちゃをたくさん入れて遊んだり、物を楽器にしたり、家の中で野球なんて、最高に楽しいと思いませんか？ウキウキ、ワクワク、アハハ、イェーイって、デイビッドがやりたくなる気持ち、ぼくはすごくわかるけど、どうしてお母さんは「ダメ！ダメ！」ばかり言って、わかってくれないんでしょう。

デイビッドはアメリカの人で男の子かな。世界のどこでも、子供はこんな風にやんちゃで、お母

さんに「ダメ」って言われている毎日なのかなと
思うとおもしろいです。何これ、おもしろい、や
りたい、楽しいって感じる子供の気持ちは、世界
共通だと思います。だから「ダメ」って言わない
でほしいです。

そして、最後のページのお母さんの言葉、「だい
すきよ！」は、世界一あたたかくて、やさしくて、
強くて、安心できるものだと感じました。